

平成 24 年度 第 1 回四街道市地域包括支援センター運営協議会 会議録

日時 平成 24 年 7 月 4 日（水）午後 7 時 00 分～午後 8 時 55 分

場所 四街道市役所 こども保育課 2 階会議室

出席者 委員 木村会長 西副会長 北村委員 梅山委員 松本委員 中山委員 菊地委員
嶽石委員 渡部委員

事務局 佐藤福祉サービス部長 小澤福祉サービス部次長 上野高齢者支援課長
濱口主幹 斎藤副主幹 能勢主査 坂本主任理学療法士 安齋主任保健師
岩楯社会福祉士

地域包括支援センター 矢部センター長 田中社会福祉士

傍聴人 1 名

【会議次第】

1. 開会
2. 議事
 - ①平成 23 年度 決算及び事業報告について
 - ②地域包括支援センター評価方法について
 - ③予防プラン再委託事業所の承認について
 - ④その他
3. 閉会

【会議】

出席委員 9 名、傍聴人 1 名

木村会長：議事録における発言者明記の件、議事①、②の公開と議事③の非公開の件、傍聴人の入室についてお諮りします。

委員全員：了承。（傍聴人入室）

木村会長：議事①、平成 23 年度決算及び事業報告について、事務局より説明をお願いします。

矢部センター長：（資料 No.1 と No.2 に基づき説明）

中山委員：基本チェックリストを行う中で、どの項目が多く、どのような対応をされていますか。

安齋主任保健師：チェックリストは主観で記入していただき、口腔関係(口の渇き、固い物の食べづらさ、むせ込み)の項目が多いです。講話や唾液の分泌を良くする体操、歯科衛生士のアセスメントによる評価を行うことで、改善を実感されています。

西副会長：認知症サポーターは、四街道に 1 千人以上いると思うので、今後カッコ付きでも総数を

わかるようにしてほしい。現在、小中高生のサポーター179名の内訳を教えてください。

矢部センター長：小学生が49人、中学生が126人、高校生が4人となっています。

渡部委員：虐待防止会議は、どのような内容で行われていますか。そしてどのような事例があるのでしょうか。また、別居する場合、どのような対応をしていますか。

矢部センター長・能勢主査：虐待事実の確認、情報収集、時限的な計画、次のステップを決めるための会議となっており、虐待者の内訳で多いのは、息子、夫です。対策部会で扱うのは、ほとんどが在宅の案件で、施設を扱う場合は、別の対応をしていくことになります。分離(別居)については、虐待の状況によって、家族との同居が困難であれば、施設入所の方向で対応しています。去年は1名、措置入所の決定をしました。なお、改善されれば措置を解除してご自宅に戻ることもあります。

木村会長・嶽石委員：虐待の種類、再発ケースについての対応等お聞きします。

矢部センター長：虐待の種類としては、身体的、心理的が多くを占めています。対応としては、虐待をする側もされる側も支援していくスタンスをとります。再発ケースについては、いったん終了としても、ケアマネと連携を密にして再発防止への対応を図っています。

松本委員：実際に介入困難事例はありますか。

矢部センター長：あります。対応困難なケースは、家族全体に問題があることが多いです。

菊地委員：警察からの相談はどのような内容ですか。

矢部センター長：暴力的な事案になりますと、市民から直接警察に通報するケースがあります。その際、事後の支援等を依頼される場合があります。

西副会長：成年後見人の市町村長の申し立て実績はありますか。

能勢主査：高齢者としての実績ゼロです。昨年度1件申請がありましたが、途中で亡くなりました。

木村会長：次に議事②、地域包括支援センターの評価について、事務局より説明をお願いします。

能勢主査：(資料 No.3 に基づき説明)

中山委員：自己評価は、職員が自分の担当する業務について評価するのですか？

能勢主査：個々の担当者が作るわけではなく、センターとしての評価です。

西副会長：自己と行政評価があるが、会社で言えば査定と同じであり、個人評価は見えてくるが、課題や問題等の分析、イメージはできないのではないかと。

上野課長：個人的な査定ではなく、事務事業において、力を入れていくべきところを明らかにし、包括のレベルアップを図ることや、将来、包括を複数作る時にそれぞれの包括の平準化を考えていかねばならないため、このような評価を用いていこうと考えています。

北村委員：4段階評価では、2に準ずるような1とか、2と3の区別や4.5などあると思うが、機械的にとるのか。また、どんな風にレーダーチャートと結びつけるのか。

上野課長：レーダーチャートについては、あくまでも例図ということでご理解をいただきたいと思っています。4段階評価は、点数をつけ、何点以上ならいいというためのものではなく、今後の運営に役立てるためのものとして考えています。

渡部委員：評価結果の扱いとしては、市民に公表するのか、それとも内部資料とするのか。

上野課長：今のところ、内部資料として取り扱いたいと考えています。

嶽石委員・松本委員：評価は必要だと思う。しかし課題を明らかにしていくことに関して、点数付けがいいのかどうか。また、最近は企業も評価を課しているが、自己評価は、甘くなりがちなので、内容は吟味した方がいいと思います。

上野課長：点数はある程度必要と思っていますが、つけ方、項目の内容については、抽象的なところもあり、検討いたします。

菊地委員：自己評価と行政評価に差があったら、どうするのか。

上野課長：その理由を一緒に考えていきます。お互いに連携していくための評価であり、行政は丸投げせず、積極的に関わることへの表れです。

梅山委員：サブセンターについては、それぞれの状況を集めて評価するのでしょうか。

上野課長：サブセンターのみで評価するのではなく、包括全体としての評価を考えています。

木村会長・西副会長：複数の包括なら、評価によりレベルが保たれたり、平準化を図るという意味では大切だと思う。しかし、現在、包括は1か所なので、どのレベルが評価の基準なのか、もう少し行政が評価の基準を示していかないと課題等が出てこないのではないかと。すぐ実施ではなく、評価項目・評価基準について検討してからでいいのではないかと。

佐藤部長：本日いくつかご指摘をいただきましたので、検討して、次回にあらためて議論していた

できればと思います。

木村会長：内容は検討するという事で、評価自体を行っていくことについては賛成でしょうか。
(全員賛成)

木村会長：次に議事③ですが、予防プランの再委託事業所の承認になります。傍聴人の方は個人情報が含まれるため、ここで退席をお願いいたします。
(傍聴人退室)

木村会長：それでは、議事③について事務局よりご説明をお願いします。

能勢主査：(資料4に基づき説明)

木村会長：それでは、只今のご説明について、何か質問等ございますか。
事務局の報告の通り、再委託事業所として承認してよろしいでしょうか。
(承認)

木村会長：他に委員の皆様から何かありますか。

上野課長：次回の運営協議会の開催については、来年の2月を予定していましたが、検討させていただきます。

木村会長：以上をもって本日の議事については終了します。

午後8時55分終了